

## 令和5年7月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年7月31日（月）13時00分～13時40分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、河北新報、朝日新聞、時事通信社、共同通信、NHK、YTS、TUY、YBC、さくらんぼテレビ、NCV、置賜日報

<市>市長、秘書広報課長

4 記者クラブからの質問事項

- (1) 大雨から1年が経ちました。市長の受け止めや市での新たな対策等をお聞かせください。
- (2) 米沢市の田んぼアートが今年で終わることについて。田んぼアートは市にとってどんな存在でしたか。貴重な観光資源の1つだったと思いますが、終了する理由をお聞かせください。（小野川温泉にとって観光誘致になっていたのに、それでも終了しなければならない理由）また、目的は観光重視ですか。農業への興味を持たせるための重視ですか。観光目的が大きいのであれば、観光課に任せて、展望台を有料にする等、存続させる方法はあるのではないのでしょうか。
- (3) 市立病院の開院に向けた進捗状況および市民への周知方法について、お聞かせください。
- (4) マイナンバーカードをめぐるトラブルはありますか。最近、新たに返納した人はいますか。
- (5) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和5年度7月の定例記者会見を開催いたします。記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は4点ありました。

まず1点目は「大雨から1年が経ちました。市長の受け止めや市での新たな対策等をお聞かせください。」という内容です。

受け止めにつきましては、昨年8月3日、本市にも線状降水帯が流れ込みました。1967年の羽越水害時に堀立川が氾濫し、市内に床上浸水した時以来の災害だったように思います。これまで大雨による災害・被害が、米沢では少なかったということで慣れていない部分もありましたが、危機管理という視点から、住民の皆さんや行政が対応して人的被害がなかったことは不幸中の幸いでありました。一方、雨による家屋の浸水や農地の冠水、土砂崩れ等の被害も確認されましたので、今回の反省を踏まえながら今後しっかりと取り組んでいかななくてはならないと考えています。

極力、人的被害、農地・インフラ被害を最小限にすることを第一とし、もし被害があった場合には、関係機関と協力しながら対応しなくてはなりません。新たな対策としましては、5月2日に東日本電信電話株式会社と「米沢市（置賜地域）におけるレジリエンス強化推進プロジェクトに関する連携協定」を締結しました。さらに、7月3日には、米沢市社会福祉協議会と「米沢市災害ボランティアセンター設置・運営等に関する協定」を締結しました。この協定締結により、災害発生時の迅速かつ的確な対応及び被災からの早期回復を図ることが出来るものと考えております。

また、インフラ被害につきましては、昨年の豪雨では121号線の崩落などもありましたが、危険性のある場所についてどのように強靱化を図っていくかが重要だと考えています。喜多方市をはじめ、会津地域との連携を取りながら、新たな道路づくりをどう進めていくか検討していかなければなりません。121号線は、会津地域の皆様にとっても生活道路としての役割を担っていますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。今は、昨年8月3日の反省を踏まえて、防災危機管理課ともどのような対策が必要かを検討しているという状況です。

2点目は「米沢市の田んぼアートが今年で終わることについて。」ということで、内容は2つありました。まず、「田んぼアートは市にとってどんな存在でしたか。貴重な観光資源の1つだったと思いますが、終了する理由をお聞かせください。」という質問についてです。

田んぼアート事業は、本市の美味しいお米や米沢のPR・情報発信を行い、新たな観光スポットとして集客力の向上を図るとともに、都市住民や地元の子どもたちなどが参加する農業体験を通じて、農業・環境への理解を促進することを目的に実施してきました。田植え・稲刈り体験には、市内のほか東北や関東、遠くは愛知県からお越しいただき、未就学児から90代まで幅広い年齢層の方にご参加いただきました。体験を通じて、本市の食や農業に関心を持っていただける機会や参加者同士、世代を超えた交流、本市を訪れるきっかけづくりに繋がっているものと考えています。また、田植え後、田んぼに穂の色が異なる稲によって浮かび上がる絵柄は大変見ごたえがあり、来場された方を楽しませ、交流人口の増加に繋がっていると考えています。

しかしながら、18年間事業を実施していく過程で、絵柄を眺望できる視界が遮

られてきていること、展望台の老朽化、お手伝いをしていただく農家の方のご負担など様々な課題が出て、すぐに解決できる事案ではなく時間等を要することから実施主体である「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」で協議した結果、当協議会での事業実施は、残念ではありますが、今年度で終了するという結論に至りました。

次に、「目的は観光重視ですか。農業への興味を持たせるための重視ですか。観光目的が大きいのであれば、観光課に任せて、展望台を有料にする等、存続させる方法はあるのではないのでしょうか。」という質問についてです。

田んぼアート事業は、「農業・環境への理解を促進するとともに、新たな観光スポットとして集客力の向上を図ること」を目的として、「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」が主体となり事業を実施してきたところです。そのため、この事業につきましては、農業面に重点を置いた事業であるものと認識しているところであり、観光面におきましては、田んぼアートを観覧に来た方が近くの小野川温泉を周ることにより、観光誘客につながっていく相乗効果を期待し、これまで事業を推進してきたところです。

今回、残念ながらこの事業が終了することになりましたが、事業実施主体である「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」による、様々な課題を踏まえての結論でありますので、そのことを尊重する必要があると考えます。そのため、現段階では観光面での事業存続は考えておりません。

3点目は「市立病院の開院に向けた進捗状況および市民への周知方法について、お聞かせください。」という内容です。

令和3年6月に着工して以来、約2年間の工事期間を経て、本日7月31日に建物の引き渡しを受けます。その後3か月間で、医療機器や備品の搬入、電子カルテシステムの構築、運用や移転のリハーサル、内覧会などのイベントを行いながら、令和5年11月1日に開院を迎えます。開院後は、既存の建物の解体や駐車場などの外構工事を行い、令和6年12月にグランドオープンとなります。

新市立病院は、令和5年11月1日に同時開院する三友堂病院と機能を分担し、主に重症患者の受入れや救急医療などを担う急性期医療に特化することから、利用方法、外来診療のかかり方が従来と異なってきます。そのような情報を当院外来患者へのチラシ配布、院内の会計窓口や外来待合スペースに掲示するとともに、市及び市立病院ホームページに情報を掲載するなど、市民の皆様へ周知すべき情報を随時発信しています。また、広報よねざわ9月1日号では、新病院特集号として、当院の利用の仕方や新病院が持つ機能などをご紹介します。広報よねざわ10月15日号でも、折り込み形式で保存版を配布する予定です。なお、今年4月から（9月までの5回）は、毎月1日号の「教えて！市立病院」のコーナーを活用し新病院の情報をお伝えしています。

4点目は「マイナンバーカードをめぐるトラブルはありますか。最近、新たに返納した人はいますか。」という内容です。

本市では、コンビニ交付サービスでの証明書の誤発行及びマイナンバーの紐づけ誤りは現時点で発生しておりません。同様事案の発生防止のために、システムベンダー

及び委託業者の点検を行いました。

また、新たにマイナンバーカードを返納した人の人数につきましては、令和5年4月に2人、7月に5人となっております。7月の返納理由としましては、「信用できない」「不要」「なくすから」等がありました。

事前にいただいた質問に対する回答は以上です。

○記者

その他から質問させていただきます。この週末、熱中症で残念ながら女子生徒が亡くなりました。この事案に対する市長の受け止め方を教えてください。

○市長

亡くなられた方につきましては、非常に残念で悲しい思いをしております。今後の熱中症対策は、それぞれの現場で行うことが重要だと考え、市民の皆さんにもしっかりと対策をお願いしていきます。教育委員会の対応も受け止めながら、今後の本市の対応について検討していかなければならないと思います。

○記者

1点目について伺います。現時点で米坂線が復旧していないことに対しての市長の考えをお聞かせください。

○市長

JRの試算により86億円の復旧工事費が掛かると提示されました。その後の、国・県・被災自治体等の負担割合などの具体的な話は出ていません。県でも基本的にはJRに負担いただきたいという話をしており、私たちもそうあるべきだと考えています。ただ、経営的にも非常に厳しい路線であることを考えると、今後の話し合いがどう進めていくかを検討していただかないといけないと思います。特に、飯豊町・小国町では住民の足となっており、産業・観光の面からも1日も早い復旧をしないといけないと考えています。

○記者

2点目について伺います。田んぼアートの取材に行った際に、首都圏の方が楽しんでおり、「地元に戻っても米沢産の商品を手取る」という話をしていました。このように、関係人口の拡大にも寄与していたイベントがなくなってしまうのは残念に思いますが、何か代替のイベントなどは検討していますか。

○市長

田んぼアートのみならず、都会の方々が米沢の事業に参加できる方法についてはいろんなやり方があると思います。田んぼアートについては、残念ですが、展望台の問題や、実際に担当している農家の皆さんが、高齢化も進む中、繁忙期の対応が難しいということもありました。行政としても、農家の方々の協力を得ないと続けることが難しい状況です。今後、場所も含めやり方を検討していくことになるのと考えています。米沢市との関係人口については、例えば春の上杉まつりに参加していただいたり、紅花まつりで紅花を摘んでいただいたりしておりますので、今ある事業の中で関係人

口を増やしていくことを考えていきたいと思えます。

○記者

4点目について伺います。7月におけるマイナンバーカード返納の人数や年代などを具体的にお願ひします。高齢の方の返納が多いことについて、市長からコメントをお願ひします。

○市長

60代の男性が1名、70代が2名で男性と女性、80代が男性2名の計5名です。返納の理由については、全国的に話題になっていたこともありますし、現時点ではマイナンバーカードを持っていないとできないこともないため、不要だと思われた方もいるのかなと思えます。

○記者

その他について伺います。熱中症の件で、原因究明や調査について、市として今後取り組んでいくことはありますか。

○市長

市としても、教育委員会だけの問題にせず、この時期の通学や、大人・高齢者を含む日常生活での対策について対応していく必要があると考えています。注意喚起も含めた、市民の皆さんへの対策のお願ひを検討していきます。

○記者

その他について伺います。熱中症の件で、市民に向けたメッセージを頂けますでしょうか。また、通学の件で、市長の考えをお聞かせください。

○市長

熱中症アラートが出ているときは外出を控える、室内にいても水分をしっかりとり、クーラーをつけるなどの対応を取ってもらいたいと思えます。本市以外でも、熱中症の報道をみると、クーラーを使わないケースも多いようです。身体を第一に考えていただきたいと思えます。

今の段階で、通学がどこまで影響しているかはわかっておりませんが、保護者説明会ではスクールバスについても意見が出たようです。今後、教育委員会と対応を検討していきたいと思えます。

○記者

その他について伺います。部活動実施の判断に用いる暑さ指数を測定していなかったことについて、市長はどのように受け止めましたか。

○市長

教育委員会が出した方針を適切に実施しなかったことについては非常に残念に思えます。

○記者

その他について伺います。公共施設のエアコン設置状況はどうなっていますか。

○市長

公共施設全てについては今お答えできませんが、コミュニティセンターについては、

順次設置しており、令和6年度に全館完備いたします。できるだけ、クーラーの無い場所は、対応はしていかなければならないと考えています。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和5年度7月の定例記者会見を終了いたします。